

知教労と半田市教育委員会との話し合い結果

半田市教育委員会 教育長加来正晴 小坂教育部長 齊藤課長 白城主任指導主事
知多地方教職員労働組合 岩澤弘之 石黒辰彦 池田博 岡田康

1 労働安全衛生法にもとづく職場作りを

- (知教労) 出退勤簿を例年同様調べたが、在校時間が 100 時間を越える教員が、半田中学校で 27 人、乙川中学校で 32 人、特に多い先生は、200 時間を越えている。昨年からは減っていない。
- (教委) 4 月は多いところもあることも事実だ。
- (知教労) 他の市町では、少しずつ減ってきている。教育委員会として放置するのか。
- (教委) 指導をよろしく頼むと、9 月の校長会で伝達した。
- (知教労) 知多市などは、4 月時点で要請文を各学校に配っている。
- (教委) 半田市も文書で出しているが、なかなか進まない。
- (知教労) 労働時間が 100 時間を越えた場合、速やかに医師の診断が受けられるよう措置を講じているか。
- (教委) 80 時間を越えて希望があれば対応できるシステムにはなっている。昨年 3 月と 7 月に県立学校宛にも通知が届いている。
- (知教労) そのような制度があることが一般の教員には知らされていない。
- (教委) 知らせるようにしていきたい。
- (知教労) 50 人を超える事業所の、職場での衛生委員会は開かれているか。
- (教委) 半田中・乙川中と亀崎小では開いていた。
- (知教労) 講師などの職員をカウントするよう(厚労省の)基準が変わってきたので、対象となる学校が増えるのではないか。
- (教委) なかなか誰を常勤と見るのが難しい。
- (知教労) 割振り変更簿は、すべての学校であることになっているが、亀崎中では、記入がまったくない状態である。実際にはありえないことだ。
- (教委) 出退勤簿に記されている時間がすなわち労働時間ではない。割振りが無いようにするのもひとつの方法だ。
- (知教労) 4 月の時期にまったく勤務の超過が無く、割振りが無いなど他の学校との比較においてもありえないことだ。昨年度も、一昨年度も同様の指摘をしている。同様の勤務をしているにもかかわらず、きちんと労働時間と認められ割振りがなされるのと、そのままにされるのでは不公平感が出る。
- (教委) 改めて事情を聞く。
- (知教労) 休憩がきちんと取れるようにしてもらいたい。取れなかった場合は、勤務を早めに解くなどの弾力的運用を行ってほしい。
- (教委) 法律上勤務の間に休憩を入れるべきだが、そのあたりは校長がよく配慮してやっているはずだ。
- (知教労) 泊を伴う行事の割振りに学校の格差がある。生徒を引率していて 1 日に 2～3 時間も休憩は取れない。きちんとした割振りをすべきだ。
- (知教労) 地域の行事に安易に教職員を動員させないよう、また、そのような慣例を減らすよう指導して欲しい。
- (教委) なかなか今までのつながりもあって、急に関係は切れない。教員が納得して参加できるように校長に指導したい。
- (知教労) そこをきちんとしていかなければ、実質的な勤務が減っていかない。
- (知教労) 11 月 19 日は(県が進める)ノー残業デーなので周知して欲しい。(ソフトバレーの練習などの)別の企画を考えている動きもあるが、ノー残業デーは本来の形で行ってほしい。年休取得率アップの運動にも取り組むべきだ。
- (教委) ノー残業デーについては通知する。年休は、教員は(夏休み等もあって)割合と消化している。

2 ゆとりのある教育実現のため、教育諸条件の充実を

- (知教労) 中 1 と小 2 までの 35 人学級を実現できるように努力して欲しい。
- (教委) 教育長会で国及び県に要望していく。
- (知教労) 生活支援員などの充実を図って欲しい。
- (教委) 半田市は人的な支援は他市町と比べても力を入れている。そのあたりを理解してもらいたい。先ず、養護教諭の補助員(1 学期)を 7 校につけた。生徒が 600 名以上で、国の 2 名配置の方針に満たない学校で非常に喜ばれている。支援員は 10 人増やした。1 校に 3 人が目標だ。国の加配とは別に特別支援学級への補助員もつけている。生徒指導アドバイザーも独自で取り組んでいる。
- (知教労) そのことは組合としても評価している。エアコンの導入について、半田市はどうか。

(教委) 今年から「検討に入っている」状況である。

(知教労) 阿久比は来年度ですべての学校に入る。武豊は、特別支援学級に入れた。半田で具体的な計画はどうか。

(教委) まだ「検討」の段階である。学校の老朽化の問題もあり、具体的にはまだ進めていない。

(知教労) 特別教室の机・椅子が傷んでいる何とかして欲しい。

(教委) 教室の修繕も必要かどうかを考えながら、調査して対応していきたい。

(知教労) 教員用や生徒の使用するトイレの一部にも温水シャワーの設置をしてもらいたい。

(教委) 検討する。

3 教員の自主的な研修が保障を

(知教労) 学校訪問のあり方について、半日日程にするとか、指導案の略案化をすとかなどの方向性を考えて欲しい。

(教委) 1年に1度は、教育長が学校を訪れ、授業を見ることにも意義はある。

(知教労) そのことを否定はしない。しかし、そのために指導案の準備を2ヶ月以上前から考えなければならぬなど余計に多忙化を進めているように思える。もう少しいつもの状態を見ていただければよいと思う。

(教委) 教育長が（連絡もしないで）行くほうが迷惑ではないか。

(知教労) 学校訪問が行事として教師にかけている負担や時間数の問題からしても大きい。教育長会の場面でも論議を進めていってほしい。

4 その他

(知教労) 教育振興会や教職員会の出版物で、実際にあまり利用できていないものを児童・生徒に購入させるのは問題がある。

(教委) 教師の手で作っていることにも意義がある。

(知教労) そのためにまた仕事も増えていることも事実だ。教育振興会などの教材は学校で自主的に選択していいのかが問題だ。

(教委) 基本的には学校が決めることだ、それに、これは教職員会の問題ではないのか。

(知教労) 校長会長（教職員会長）にも同じことを言っている。

(知教労) 部活動について、土日のどちらかを休みにすることや、両方行った場合は、次の土日を休みにするよう削減の方向を考えてほしい。豊明は朝の部活動が健康上好ましくないということで廃止している。

(教委) 部活の過熱化は考えていかなければならないが、保護者との合意のもとで進めていく必要がある。

(知教労) スポーツクラブは以前高い理想で始められた。一定の修正が加えられたが、再度社会体育のあり方という面で取り組んで欲しい。

(知教労) 教科書の選定について教員の声をもっと取り入れるべきだ。啓林館と東京書籍の教科書では、小学校の算数など理解度が違ってくる。どこの教科書を採用するかということでは、選択する機会が欲しい。

(教委) 教科書展示は、土・日にも開かれている。各教科の専門の委員が慎重に検討している。